発行者　ユニセフ子どもネット事務局　財団法人 日本ユニセフ協会　広報室　〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス
でんわ：03-5789-2016　ファックス：03-5789-2036　電子メール：jcuinfo@unicef.or.jp

TOPICS TOPICS

ユニセフトピックス

日本

国連子どもの権利委員会が日本政府の報告を審査

委員会は、日本政府に、より“子どもの権利”にもとづいた活動を勧告

「子どもの権利条約」は、それを締結した国が、国内の子どもたちの問題や子どもの権利を実現するために政府などが何をしたか、それによってどんな前進があったかを、国連の子どもの権利委員会に定期的に報告しなければならないと定めています。これにしたがって、今年1月28日、2回目となる日本政府からの報告の審査が、子どもの権利委員会でおこなわれました。(第1回目は1998年におこなわれました)

日本政府は、子ども買春などの商業的性的搾取を罰するために「児童買春等禁止法」をつくったり、子どもの虐待を防ぐための「児童虐待防止法」をつくったりしたこと、日本が国際援助のために世界でも最大の資金を出しており、その支援の多くを開発途上国の保健や教育のためにあてていることなどを報告しました。

子どもの権利委員会は、こうした点を評価する一方で、次のような点などについて、さらに考え直したり、対策をすすめる必要があると指摘しました。

子どもの権利委員会が勧告した主なことがら

- 日本政府はまだ「子どもの権利条約」の2つの選択議定書（子どもの兵士と子どもの商業的性的搾取に関するもの）を批准していない
- 子どもの権利の分野において、日本政府はNGOなどの市民社会との協力が十分でない
- 子どもや一般の人びとが、まだ「子どもの権利条約」の内容や理念、その生かし方などを十分に理解していない
- 日本では、結婚できる最低年齢が男子18歳、女子16歳と男女で異なっている
- 子どもの意見表明や活動の自由が、ときに制限されている
- 日本では、日本人の父と外国人の母を持つ子どもが、日本人の父親が出産前にその子どもが自分の子どもだと認めていない限り、日本国籍を取ることができない。そのため無国籍になってしまう子どもが生まれている
- 学校や施設、家庭などで、いぜんとして体罰が残っている。子どもの虐待について、それを防ぐための方策がまだ十分ではない。
- 子どもの精神の健康を守るための方策が十分ではない
- 若者の間で、性感染症が増えており、麻薬も広まっている
- 子どもの自殺が多い
- 教育制度が競争的すぎて、精神の健康に悪い影響をあたえていたり、経済的な負担が大きい補習のための教育（塾など）を受けなければならなくなっていたりする
- 1998年の1回目の報告のときに「子どもの権利委員会」から指摘された、差別の禁止、学校が競争的すぎること、いじめをふくむ学校での暴力などの点について、十分なフォローアップができていない
- 日本では、法律で結婚していない人同士の子どもが差別されている。また、女子、障害のある子ども、在日韓国・朝鮮人、アメラジアン（アメリカ人とアジア人の間の子ども）、アイヌや被差別部落出身などの少数派の人びとに対する差別が残っている

今後、子どもの権利委員会から出された勧告を日本がどのように実現していくか、日本政府をはじめ子どもに関わるすべての人の取り組みが求められています。

アフガンスタンと南部スーダン

元子ども兵士たちへの支援が急がれる

学校に通うアフガニスタンの子どもたち
©UNICEF Afghanistan/Premfors

アフガニスタンでは、2,000人の元子ども兵士に対して、体や心のケアをおこない、平和な社会生活にもどれるようにするためのプログラムが2月10日からはじまりました。アフガニスタン北西部のバダクシャン州からはじまって、2月中に同じようなプログラムがクンドゥスなど他の4州でもはじめられます。2004年の終わりまでには、合計で5,000人の元子ども兵士が支援を受けて、学校に通ったり、職業技術を学んだりできるようになる予定です。ユニセフは、アフガニスタンには8,000人の元子ども兵士がいると推定しています。すでに多くの子どもたちが軍隊からはなれていますが、教育のチャンスも収入を得る方法もない子どもたちには、通常の社会生活にもどるために一刻も早い支援が必要です。

また、南部スーダンの白ナイル上流地域でも、1月末に、ゲリラ組織SPLAが子どもの兵士を除隊させることを決めました。この地域の子ども兵士800人のうち、最初の94人の子どもたちが軍隊から解放されました。除隊式で、「銃を置いて軍服を着がえ、家族のもとへもどって学校へ通いなさい」と命じられた子どもたちは、行進しながら「学校！学校！」と大きな声をあげました。10歳のジョン・マジャクくんは、「勉強したい！」と話し、何カ月もはなればなれになっていたお母さんと会うことを楽しみにしています。ユニセフは、2000年から南部スーダンでの子ども兵士の解放をはたらきかけ、2001年の終わりからSPLAなどが解放した子ども兵士は12,000人にのぼっています。白ナイル上流地域での子ども兵士の解放が進んでも、まだ2,500人の子どもが兵士として残っており、ユニセフは、すべての子ども兵士の解放を目標に活動をつづけています。

しかし、ここ数カ月、スーダンでは、西部の地域で民兵などによる略奪や焼きうちがひんぱんに起こっており、となりの国のチャドに多くの難民が逃げ出すなど、不安定な状況がつづいています。ユニセフはチャドに逃れたスーダン難民の子どもたちへの支援なども進めています。

2001年にスーダンで解放された元子ども兵士たち
©UNICEF/Airlift-05

もくじ

ユニセフトピックス ……1
イラン地震　4万人の命をうばった12秒間／現地にユニセフの支援物資が届くまで ……2-3
地図で見る世界の子どもたちのようす ～「世界子供白書2004」発表“女の子も学校に行く”～ ……4-5
ユニセフ子どもネットメーリングリスト　ユニセフ・スタッフ 山口さんにインタビュー！ ……6-7
REPORT&INFORMATION〈報告とお知らせ〉……8